

園だより 春休み

主よ、あなたたちのたどる旅路を見守っておられる。

土師記 18章6節

園庭の白木蓮がやっと白い花を咲かせました。今年は3月になっての寒波や日に寄っての寒暖差に木々たちも開花の時を見定めているように思います。そんな、年によって、季節によって自然は変わりますが、幼稚園という環境の中で思い通りに遊ぶ子どもたちは、変わらない毎日の流れに無理なく身を委ねて過ごし、自分のそのまがすべてに受け止められていると感じ、安心し、そこからそれぞれの「今」に思いを持ち、心と体を動かし各々のときを精一杯に過ごして来た1年となりました。

3月の2週間余りの日々、年度末を迎えた子どもたちの様子は、もうすぐ年長組さんとはお別れと、年中組さん、年少組さんそれぞれにありがとうの気持ちをどのように表そうかと相談していました。年少組さんは染めた和紙でかわいいお花をいっぱい作っていました。それから、今年はやっぱりかぶの葉っぱです。豊作のかぶの葉と油揚げを刻み、それを具にしたお味噌のスープも作りました。年中組さんは今年もカレー作りになったようです。それから、カルピスのグミも。それぞれに子どもたちでアイデアを出しあい、決まったらみんなで協力をして作る。年度末ならではの活動（遊び）です。そして、その活動は自分たちが楽しむことだけが目的なのではなく、「ありがとう」の気持ちを届けることも目的となる、今までとは少し違った心もちで楽しんでいました。その過程はこれまでの経験と変わらないかもしれませんが、けれども、そこに込められた思いは違いました。自分ではなく他者に対して思いを持ち、自分（自分たち）の出来ることで表現をし、喜んでもらえることを嬉しく感じ、そこに自分（自分たち）の力を感じる。何とも豊かな育みであることかと思えます。今年度も年中組さんからは指編みで作った飾り（ブレスレットだったり、ネックレスだったり）も贈られました。そして年長さんからはやっぱり毎年のお当番用の顔バッチが。いつそんなによく見ていたのかしらと思わせる異年齢バディの特徴を捉えた顔バッチに感動でした。年少さんからの和紙のお花は、卒園式の日に来るお部屋をかわいらしく春らしく飾っていました。それから、年少組さんが染めた春らしい台紙に年中組さんが飾った「そつえんしき」の看板は、卒園する年長組さんを温かく迎えていました。子どもたちが様々に豊かに想像し考えを廻らせるための保育環境を保育者たちが大切に備え、子どもたちは溢れるほどにイメージを膨らませ楽しみながら思いを表現していました。

今年度も子どもたちの「今」を大事に様々な活動、子どもたちにとっては「遊び」から、豊かな育みが成された園生活の日々を過ごして来られましたことに心から感謝いたします。最後に、幼稚園を創られたドイツの教育者フレーベルのお言葉をお伝え致したいと思います。

「身体の疲れるまであきずに落ち着いて遊ぶ子どもは、成長の後には必ずや犠牲的に他人の安寧や幸福をはかり、ひいてはわが身に幸福をもたらすような、落ち着いた根気強い有為の人間になるであろう」

保護者の皆様、1年間想いを一緒に、共に子どもたちの成長を見守ってくださいましたこと、心から感謝申し上げます。有難うございました。

園長 駿河 幸子